

動物との関わりを通して 人間性を育む

約30種の生き物を飼育しながら、動物に携わるスペシャリストをめざす久居農林高等学校生物資源科動物コース。飼育管理や加工など、多様な実習を通して、社会で活躍するための基礎を身につける。

飼育数と実習内容の充実で 多角的な視点を学ぶ

大釜池からほど近い津市久居明神町に、久居農林高等学校の管理する諸戸山農場がある。校舎からの距離は約3km。農業学科生物資源科の動物コースに所属する生徒たちは、自転車で校舎から農場へ移動し、ウシやブタ、ヤギ、犬などの世話に精を出す。

久居農林高等学校のはじまりは、明治37年創立の農林学校。一志実業女学校との統合を経て、昭和30年に久居農林高等学校に名称を変更した。学科の変更や統廃合を繰り返して、現在は農業学科と家庭学科の2学科を設置している。

平成9年の学科変更に合わせて9つのコースを開設した。1コースの人数は約30人。コースを細分化し、より専門的な指導にあたっている。

学科変更前の畜産科から生まれた動物コースでは、近年のペット事情にあわせてウサギやインコ、モルモット、

ウーパールーパーなど愛玩動物の飼育も開始。現在では約30種1300の生き物を飼育している。

座学では畜産学や食品流通、環境問題を学ぶ。実習では飼料配合やヒツジの毛刈り、犬のトリミングなどの飼育管理に加え、乳製品づくりや食肉加工などの食品加工にも取り組む。ニワトリの卵は校内の販売所で地域



ウシに鼻輪をつけてエサまで誘導する



ラブラドル・レトリバーのセレス。みんなのアイドル

関わる機会の多い動物コースだからこそ培われるもの。

集めたニワトリの卵は、パック詰めして校内の販売所に陳列する



住民に販売。「育てる、つくる、売る、食べる」のあらゆる立場から動物に関わることで、生徒は将来の道を決めていく。

生徒主体の授業で 自主性と対応力を培う

実習において教員は、作業内容の説明以外の指示をほとんど出さない。生徒の自主性を育むためだ。生徒は班ごとに効率的な方法を模索しながら作業を進めていく。問題が発生したときは、まず原因を推定。自分たちで対処できるかどうかを考え、必要な場合に限り教員に相談する。

同じ動物でも地域や目的によって飼育方法が異なる。技術も日々進化していくため、学校ではすべて教えられる。そんな状況でも正しく判断できる対応力が重要だと考えています。失敗するなかで身に着けるのが普通ですが、私たちは命を扱っています。失敗はできません」と市川善紀先生。指導も厳しいが、生徒たちはくらくらしているという。

飼料は1袋20kg。1年生は持ち上げるだけでも時間がかかる。体力を要するのはもちろん、放課後や長期休暇期間の当番など、課外の拘束時間も長い。それでも生徒たちは根強く作業を続ける。坂詰由依子さんは「ウシは名前を呼ぶと寄ってきてくれる。その姿を見るところれしくなります」と笑顔。中林真理さんは「他学年と合同での作業も多く、たくさんの人とコミュニケーションをとれるのが楽しいです」と語った。宿泊実習では、各学年1班(約10

とっさの対応力やコミュニケーション能力は、実習内容が豊富で人と

人)ずつ3班が農場の宿舎に泊まる。普段見られない、動物の夜間の状態を見る重要な機会だ。学年を超えた交流の場でもある。

2年生から選択する課題研究では、2年生と3年生が合同で研究を行う。テーマはダチョウ・犬・日本鶏・ヤギ・ウサギ・ウシの6つ。

平成18年からはじめたダチョウの飼育では、昨年1羽がふ化した。購入した卵でのふ化経験はあったものの、農場内で生まれた卵による自家繁殖は初成功。代々引き継いできた研究が近年実を結んだ。

課題研究での経験を 進路決定のヒントに

卒業後の進路は多岐にわたる。施工関連企業への就職をめざすのは、ダチョウの課題研究に取り組んだ森康貴さん。ダチョウのヒナのために大きなケージを製作した経験から、ものづくりに興味を持った。

とっさの対応力やコミュニケーション能力は、実習内容が豊富で人と関わる機会の多い動物コースだからこそ培われるもの。動物コースでの経験は農園や動物園、ペットショップなどの仕事ではもちろん、一見関わりがなさそうな他分野でも役に立つ。生と死に関わりながら、生徒たちは自分自身の生き方についても真剣に考えるようになる。

幅広い学習内容と自主性を重んじる指導で、生徒が社会で活躍するための基礎をつくる動物コース。今後動物との関わりを通して、地域を担う人材を育てていく。

三重県立久居農林高等学校
津市久居東藤跡105 TEL059-255-2013



長谷川博文校長(中央)、市川善紀先生(左)、三輪進先生(右)



諸戸山農場
動物の小屋や、植物コースがつくる野菜や果物の畑がある。全体の面積は615アール

動物コース3年生

最初は怖くて苦手だったニワトリの卵集めも、今では素早くできるようになりました。根気強く続ければ、楽しみに変えられます

新しいことをどんどん学べるコースです。理解できるのが早くなると、成長を感じられてうれしいです

多種多様な生き物と触れ合えるのが楽しみです。他学年との関わりも多く、個性豊かな動物好きと仲良くなれます

中林真理さん
【動物コースを選んだ理由】動物に関わる仕事があった
【課題研究】ウサギ
【進路】教師になるために大学へ進学。飼育法についてたくさんの人と交流するなかで、人に関わる仕事をしたいと思うようになった

森康貴さん
【動物コースを選んだ理由】動物園のドラマを見て興味を持った
【課題研究】ダチョウ
【進路】施工関連業。ダチョウのヒナのためのケージをつくった達成感から、もっと大きなものをつくりたいと思った

坂詰由依子さん
【動物コースを選んだ理由】犬に関わる勉強がしたかった
【課題研究】ウシ
【進路】畜産業。実際に学ぶうちに、ウシに興味を持つようになった。ウシにエサが寄る原因を調べ、ハエよけのスプレーをつくった